

『今シーズンのインフルエンザ流行の可能性とワクチン状況』

ほとんどの皆様は 2 回のコロナワクチン接種を完了されていることと思います。

そのおかげもあって現状ではコロナウイルス陽性者は減少しており、少しほっとしたと思ったのもつかの間、今度はインフルエンザ流行に注意しなければならない季節となりました。



ご承知の通り昨年は国内のインフルエンザ感染者は激減し、市内でもほとんど報告を聞いていません。2017～2018年シーズンのインフルエンザ感染者数は1458万人、2019～2020年シーズンは約730万人でしたが、2020～2021年シーズンでは約1万4000人と報告されています。

その原因としていくつかの推測があります。例えば

- ① マスク、手指消毒、ソーシャルディスタンスなど感染対策が徹底された
- ② ウイルス干渉(他のウイルスが蔓延すると、別のウイルスが駆逐される)
- ③ 海外旅行をする人が激減し海外から入ってこなかった

などが考えられていますが、確定原因は不明です。

では今年はいかがでしょうか？

例年インフルエンザは南半球での流行が北半球にも反映されるそうです。

例えばオーストラリアでは例年 5～10 月のインフルエンザ流行時期にも今年は極めて発生は少なかったようであり、北半球でも流行しないであろうとの見方があります。

一方で、専門家によっては昨年流行しなかったので、ウイルスに暴露されることによって得られる自然免疫が、全体として低下しており、流行するときはこれまでを大きく上回る大流行になる危険性があるともいわれています。

本来なら、今年は例年以上にワクチン接種が望まれますが、例年に比しインフルエンザワクチンの供給量が少なく、多くの医療機関ではすでに予約できない状況になっているようです。

ツインデミックとも呼ばれるコロナ、インフルエンザの同時流行がないよう、これまで以上に感染対策に注意しましょう。